



# BUNAN Advanced だより

01・10・2021 No6

〒335-0002 埼玉県蕨市塚越5-10-21

学校法人 武南学園  
武南中学校  
武南高等学校  
TEL 048-441-6948

## 生命の尊重

中学校長 小松 正明

世の中には、動物を虐待したり、花木に傷をつけたりする人がいます。動物や花木を含め、すべての命は人間の命と同じです。すべての命は自分一人だけでは生きていくことができないのです。

ここに福島県警察本部監修の「ふくしまに生きる ふくしまを守る」という警察官と家族の手記の一部を紹介します。文の掲載については福島県警察本部の許可を得てあります。

### 【人を思いやること】

3月11日午後2時46分、当時中学1年生の私は、一生忘れられない災害に遭いました。激しい揺れと、たくさんの泣き声の中、どうやって校舎から出たのかも分かりません。自分の身に何が起こったのか考えられずに、膝から流れた血と、気丈に振る舞っている友達の震える肩をぼんやりと見たことを覚えています。

しばらくすると、公衆電話が使えることが分かり、並んで家族に電話をかけ、迎えを待つことになりました。

学校の中も停電したり、水道管が破裂して水が噴き出したりしている状態なので、福島県内も大変な状況であることは中学生の私にも想像がつかしました。そんな中を、警察官である私の両親が迎えに来られるとはとても思えませんでした。

私の父も母も、福島県の警察官で、いつも忙しく働いています。物心ついたころから、迎えが遅かったり、学校行事に来られなかったり、夜中に突然仕事に呼ばれたり、休みの予定をキャンセルされたり、そんな毎日に不満を持っていました。

公衆電話に並びながら、私は母にどんなことを言えばいいか迷っていました。

こんな大きな地震の後だから、両親は警察官としてたくさんの人を助けるために、忙しく働いているのだろう。迎えに来られなかったら学校に泊まることになるかもしれないし、もし電話に出られない状況だったらどうしよう。仕事のことを聞いたらどんな気持ちになるだろう。などと考えていると、私の番になってしまいました。

母の携帯電話は、コール10回でつながり、母の声が聞こえました。いろいろ考えていたのに、何を話していいか分からず、思わず「迎えに来て！」とさげんでしまいました。言った後すぐに後悔して「私は大丈夫だから。来られるようになったら迎えに来て。ずっと待っているから」と自分でも無理していると分かっているのに言ってしまいました。

何でもできる自慢の母だけど、私や妹に心配ごとがあると、いつもの100分の1ぐらいのパワーになってしまう母。母を心配させたくない。今だけは、警察官として頑張ったたくさんの人を救ってほしい。そんな気持ちで、最後に「お仕事頑張ってるね」と締めくくりました。

ずずっと鼻をすする音が聞こえ、母が「必ず迎えに行くから。待っててね。」と言う言葉を聞くと、私も目の前が涙でにじんでしまって、何も言えずに電話を切りました。

夜が来て、停電で辺りが真っ暗なのと、寒さのため、先生方は中庭に火をたきました。近所のスーパーから分けてもらった食材で先生方が作った簡単な夕食をとり、ひたすら母を待ち続けました。余震が続いて、あちこちで建物がミシミシと音を立て、そのたびに友達や先生にくっついて、心細さを

紛らわせました。どれくらい時間がたったのか分かりません。

友達の数が1人、2人と少なくなり、中学生と高校生を合わせても、数えられるくらい的人数しか残らなくなったころ、やっと母が迎えに来ました。

今思い出すと恥ずかしくなるくらい、その時ばかりは母にしがみつき、離れませんでした。

それからしばらくサバイバルな生活が続きました。

今となっては笑い話ですが、家に帰るとすぐに母はお風呂の水を湯舟いっぱいのため、入浴禁止令を出しました。最初は不思議に思っていたのですが、次の日から水道が出なくなり、母のたくましさにも感心しました。父はずっと仕事場に泊まり込み、母は毎日仕事に出かけたので、私たちもいろんな努力をしました。少ない水を大切に使うためトイレの使い方を工夫したり、妹は近所のスーパーに2時間並んで食材を調達したり、私は給水所に3時間並び飲み水を確保したり、精いっぱい家のことに協力しました。

そんな中ですごいと思ったのは、家に入れなかったり、ガソリンがなくて家に帰れない母の同僚を家に泊めたり、託児所が閉まって困っている同僚の子どもを預かったり、こんなひどい災害の時でも他の人を思いやる母の姿でした。

警察署に泊まり込んでいる同僚のために、炊飯器をフル回転させておにぎりを握って持って行ったり、私たちだけでも大変なのに、仕事から帰ると預かっている子どもの分まで食事を作り、みんなに温かいご飯を食べさせたり、浪江から福島に避難してきた警察官が冷たい白いおにぎりを食べている姿を見て、家に残っていた野菜などを全部使って、豚汁を作って持って行ったりもしていました。

私も母の姿を見て、手伝いたいと思い、一緒に料理を作りました。

するとある日、母がまんじゅうを持って帰ってきて「これはね、双葉署の人が豚汁のお礼につけてくれたんだよ。自分たちだって食べるものがないのに、ありがたいね。」と言って、一緒に豚汁を作った私に食べさせてくれました。

震災時、たくさんの人を誘導して、津波に巻き込まれた警察官もいたそうです。原発が爆発したときも、自分たちよりも住民の救助を優先した警察官の話をもつから聞きました。

そんな姿を思い浮かべると、今まで食べたどのまんじゅうよりも甘くおいしく感じました。

震災から半年以上が過ぎました。

震災が強烈すぎて、誰とも震災の話ができなかったのですが、先日、母とやっとその話をすることができました。母がしてくれたのは、地震の後、隣の家で避難した妹からのメールの話と、私からの電話の話でした。

家で留守番をしていた妹は地震の時、隣の家で避難したそうです。

たった一人で留守番していて、どんなに心細かったかしのれないのに、電話が繋がらないなかで「大丈夫」って送られてきたメールを、母は大事に保存しているそうです。

それから地震の後、私の中学校にも電話が繋がらなくなった時、私から無事を知らせる電話があったこと。

みんな自分のことで精いっぱいなのに、私から「大丈夫。お仕事頑張ってね」と言われたとき、母は胸がいっぱいになったそうです。

そして「大変なときに、自分のことよりも他の人を思ってあげられる娘を、お母さんは誇りに思う」と涙ぐんで言ってくれました。

私も、母のように人を思いやることができたんだな、とうれしく思いました。

【10月の主な行事予定】

1日	金	朝礼 制服移行期間（～14日）	16日	土	4h→囲碁
2日	土	授業公開&説明会 （在校生の保護者は参加できません）	17日	日	
3日	日		18日	月	
4日	月		19日	火	
5日	火	中学校会議	20日	水	
6日	水	教育関係者対象学校説明会 職員会議	21日	木	第4回考査 職員研修
7日	木		22日	金	避難訓練 ↓
8日	金		23日	土	生徒会役員選挙
9日	土	休業	24日	日	第5回学校説明会
10日	日		25日	月	授業1h～4h 午後→再指導 衛生委員会
11日	月		26日	火	放課後→再考査
12日	火		27日	水	中高一貫会議 放課後→再考査
13日	水		28日	木	
14日	木	制服移行期間終了	29日	金	
15日	金	完全冬服開始	30日	土	保護者会14:00～
			31日	日	